

いざという時に!



約32cm
約31cm
約30cm

災害時でも組み立て簡単! 座れる簡易トイレ

“もしも”の時の安心を備える

- 非常用簡易トイレ
組み立て簡単! 目隠しボンチョ付
- 凝固剤+汚物袋のお得なセット
防災用トイレ袋50回分 半永久保存



目隠しになる便利な
ボンチョ付き



凝固剤付き



セット内容



水分を素早く固める
凝固剤付き



セット内容

日本水循環文化研究協会

第15回 **リレーコラム**

今回もおなじみ、総合トイレ学研究家の森田英樹さんにお話を伺いました。

特定非営利活動法人日本水循環文化研究協会とは…
本コラムでも取り上げられている尿尿に関わる文化や国内外の水の循環をめぐる文化の発掘、普及、継承を目指して活動しています。2022年日本下水文化研究会から改組しました。

J.A.D.E

“ケルネル田圃”のはなし

東京都目黒区で、とても都心とは思えない500坪を超える水田風景を見ることができます。この水田は1878(明治11)年に駒場野に開校した駒場農学校の一部で、わが国最初の試験田・実験田でした。その後、変遷を経て現在では「ケルネル田圃」と呼ばれ、筑波大学付属駒場中学・高等学校の教育の場として、水田学習が行われています。

さて、この水田の名称ともなった「ケルネル」とは、明治政府のお雇い外国人として1881(明治14)年に駒場農学校に着任したドイツ人です。水田を用いて実験を行い、近代的な肥料研究などを我が国に導入した人物です。特に、トイレを語る者としては、ケルネル博士[1851~1911]は肥料研究の視点から、日本人の尿尿の成分を分析した人物として忘れることができません。博士は、食生活の違いから尿尿の成分組成も異

なると考え、農民・市民・中等官吏・軍人の尿尿を区別し、14項目にわたる分析を行いました。その結果それぞれに差が認められ、軍人の尿尿が最も肥料的価値が高いと報告されました。江戸時代には、排泄する人の環境や生活様式の違いで尿尿の肥料的価値や価格に差が付けられていましたが、なんとその順位とケルネルのデータはほぼ一致していました。経験則からくる江戸の英知が証明されたのです。1987(昭和62)年、「ケルネル田圃」のある駒場野公園の一角に「水田の碑」が建立されました。そこには【(前略)農は、人類生存の基をなす営みである。本校は、この水田のもつ歴史的意味に想いを致し、幾多先輩の偉業を想起しつつ、これを永く後世に伝えたいと考え、(中略)ここにこの碑を建立する(後略)】と記されています。

昨年は米不足のため米価が上昇し、備蓄米が放出される騒動となりました。一方、今年は米余りがささやかれているようです。これら米騒動の真相の程はわかりませんが、このような時こそ、「ケルネル田圃」を通じて「幾多先輩の偉業を想起」「人類生存の基」を考えることが必要なのではないのでしょうか。




ケルネル博士とケルネル田圃

令和8年7月に発生した熊本地震の被害によりお亡くなりになられた方に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。熊本地区には、アメニティネットワーク加盟店をはじめ、ご愛顧をいただいている多くのお客様がいらっしゃいます。被災地域の日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

Toilet topicsのコーナーでは、プロが使用するトイレ掃除用具をご紹介しました。トイレ環境の改善に関わる立場の私でも、自宅のトイレを掃除しようとした際に、使い道具がなくて思いのほか苦戦したことがあります。家庭では“いち生活者”として、状況に合わせた適切な道具のありがたみを実感しました。効果的な道具がそろうだけで、トイレ掃除はぐんと楽になり、時短にもつながるものです。(セルベッチオ中嶋)



あなたの町のアメニティネットワーク

コンナ イイトイレ

0120-57-1110

令和8年(2026年)秋号

アメニティネットワーク かわや版

年6回(1月・3月・5月・7月・9月・11月)発行

アメニティネットワーク

http://www.amenity-network.net/

Amenity Network

発行所 株式会社アメニティ
〒224-0833 横浜市中区新町685
TEL:045-871-7676(代) FAX:045-871-7777
Copyright©2024 AMENITY All rights reserved

トイレを楽しくする新聞

かわや版

KAWAYABAN

2026 秋号
Vol.122

特集 マンホール蓋を勝手に表彰?!

日本マンホール蓋アワード2026





以前、本紙でマンホール蓋を特集した際には、読者の皆様から予想を超える反響をいただきました。—あれから2年。『日本マンホール蓋アワード』が開催されるという情報を入手。期待を胸に会場に向かいました。

日本マンホール蓋アワードとは?

2026年7月、東京・渋谷のイベントスペースにて、2025年に続き2回目となる「日本マンホール蓋アワード2026」が開催されました。このアワードについて、「マンホール蓋愛好家が勝手にマンホールを表彰するイベントです」と語るのは、実行委員で当日司会を務めたマンホラーの森本庄治さん。マンホールナイトやマンホールサミットなどのマンホール関連企画を下地にしながら、日本ダムアワードを参考にアワードを立ち上げたとのこと。新人賞・テーマ賞・企画賞の3部門で構成され、その中から大賞が選ばれます。選考では、新しい発想、デザインの美しさ、背景のストーリー、地域への影響などを総合的に評価します。当日は蓋を愛するマンホラーが登壇してプレゼンテーションを行い、会場の投票によって各賞と大賞が決定されました。

昨年の熱気がよみがえる 返還式

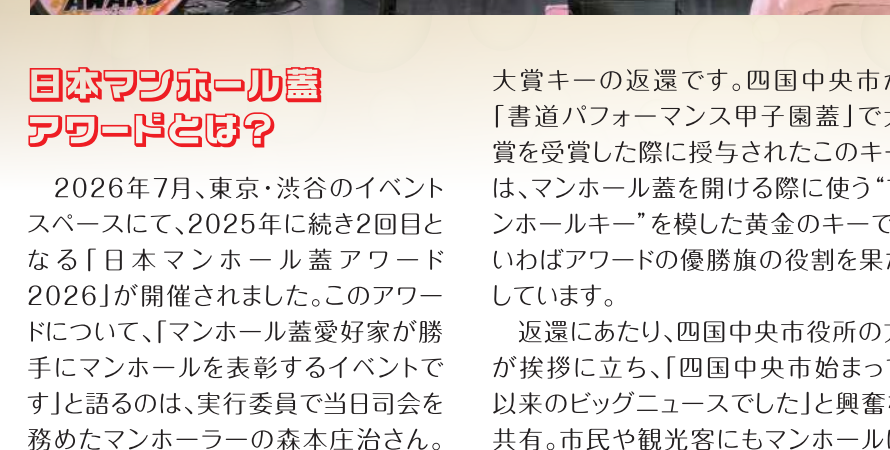
会場には約50人を超えるマンホラーが集まり、開場前から熱気が漂っていました。まず行われたのは、昨年の

大賞キーの返還です。四国中央市が「書道パフォーマンス甲子園蓋」で大賞を受賞した際に授与されたこのキーは、マンホール蓋を開ける際に使う「マンホールキー」を模した黄金のキーで、いわばアワードの優勝旗の役割を果たしています。

返還にあたり、四国中央市役所の方が挨拶に立ち、「四国中央市始めて以来のビッグニュースでした」と興奮を共有。市民や観光客にもマンホールに関心を持ってもらえるようになったと受賞後の変化を語りました。昨年の盛り上がりが会場に鮮やかによみがえり、今年このキーを手にするのはどのマンホール蓋なのか……期待が一気に高まりました。

ノミネート蓋のプレゼン

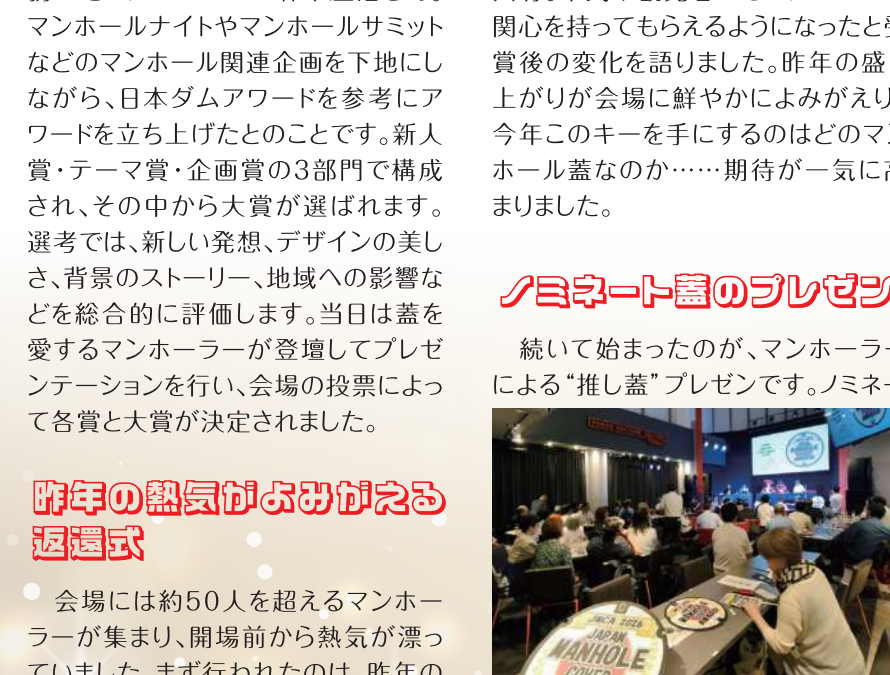
続いて始まったのが、マンホラーによる“推し蓋”プレゼンです。ノミネー



トされたマンホール蓋について、それぞれ5分間の持ち時間でスライドを使いながら、蓋の背景、地域の物語、デザインの魅力などを熱く語りました。会場は大きくうなずき、笑い、拍手が起こります。観客には「ナイスマンホ!」と書かれたうちわが配られ、良いと思った瞬間にそれを振る一体感は、まるでライブのようでした。

プレゼン終了後には観客による投票が行われ、その集計中にはマンホールカードを使ったカードゲーム「ナイスマンホ!」で交流が始まります。手札として配られたマンホールカードについて「こんなカードは初めて見た」「デザインがいいね」など、蓋を愛する人たちが自然に集まり、語り合い、笑い合う——その光景こそ、蓋文化の広がりを象徴していました。

受賞した蓋は次ページで……



「マンホールキー」(マンホールの蓋を開ける工具)を模した「大賞キー」が昨年大賞の四国中央市から返還されました。

4

1



家庭や職場でも使える! プロが選んだトイレ掃除用具5選

プロの清掃現場で支持されている用具には、理由があります。日常のトイレ掃除を、もっと効率よく、もっと確実に。ここでは、プロの現場で使われている清掃用具の中から、家庭や職場でも扱いやすい5アイテムを紹介します。汚れの種類や場所に合わせて使い分けることで、トイレをラクにキレイに保てます。

ナチュラルウォッシュα

撥水効果で汚れがつきにくい



中性で便器・洗面台・タイル・陶磁器等、多用途に使える。植物抽出成分配合でイヤなおいをやわらげる。シリコンオイル配合で汚れがつきにくい。



びっくりproトイレクリーナー サトミツ棒

ふわふわの毛先で凹凸にフィット



表面を傷つけず汚れをからめとるトイレブラシ。使い勝手のいいヘッドの角度で便器のフチなどの凹凸などにもフィット。

すみっこブラシ

すみっこに届きやすい形状



便器と床の接合部など隙間やすみっこを清掃する際に便利なブラシ。ブラシの反対側には小さいブラシも収納されていて2WAYで使える。

すきまピカピカ

わずかな隙間の汚れを掻き出す



トイレのあらゆるすきまや凹凸にするっと入る。平らな棒についていることで使い勝手の良い形状。

マジックファイバー

水だけでぐんぐん落ちる!



洗剤を使わなくても水だけで汚れを落とす特殊な繊維「びっくりクロス」を使用した簡単便利な清掃グッズ。手に収まるサイズで小回りが利く。

5つの清掃用具は、プロの現場で実際に使われているアイテムです。用途に合わせて使い分けることで、短時間でも細部まで衛生的な状態を保てます。すきまピカピカ以外はアメニティで購入可能です。家庭や職場でも取り入れて、日常清掃をより快適にしてみたいはいかがでしょうか。

ハーモニカ横丁マンホール蓋 (東京都武蔵野市)

吉祥寺・ハーモニカ横丁の蓋は、横丁80周年を記念して制作されました。きっかけは地元中学生の探求学習です。横丁の魅力を調べる中でキャラクター「よこちよ」が生まれ、蓋のデザインにも採用されました。もともと飲み屋街として学生や親から敬遠されがちだった横丁でしたが、蓋をきっかけに“親しみやすい通り”へとイメージが変わっていきました。商店会や武蔵野市観光機構も動き、地域を巻き込んだプロジェクトへと発展していきました。当日駆けつけていた商店会長も、「たくさんの想いが詰まったマンホール。皆様のマンホール愛が溢れる中で大賞をいただけて光栄です。」と話されていました。



大賞
新人賞

テーマ賞



「大阪・関西万博デザインマンホール」

今年のテーマ賞は「開催記念蓋」。イベントの開催を記念して作られた蓋の中から選ばれたのは「大阪・関西万博デザインマンホール」です。「インフラを使って万博を盛り上げたい」という自治体からの要請を受けて制作された蓋で、2022年12月に初設置され、ミャクミャクが大きくデザインされた蓋は街のあちこちで万博の始まりを告げる存在となりました。蓋には「まいどおおきに」「めっちゃ ええやん」「ようこそ おおさかへ」など、大阪らしい言葉が添えられており、探す楽しみがあります。子どもたちには大反響で、蓋の上で記念写真を撮る姿も多く見られたそうです。

企画賞



微生物マンホール蓋(長野県)

マンホール界隈を盛り上げた素晴らしい企画・イベントをたたえる企画賞では、長野県千曲川流域下水道事務所の「微生物マンホール蓋」が受賞しました。2019年の東日本台風で千曲川の堤防が決壊し、終末処理場は2m以上の浸水被害を受け、下水処理を担う微生物はほとんど流されてしまいました。栄養の途絶えた極限状態を生き抜いたわずかな微生物の子孫が現在の下水処理を支えているそうです。終末処理場の前所長はこの“見えないヒーロー”をかわいいキャラクターにし、絵本を作り、マンホール蓋や名刺まで制作しました。場内に設置された蓋は写真撮影スポットとなり、所長自ら専用のバケツとたわしで蓋を磨き続けたというエピソードも印象的です。

人が集まり、地域が動き出す

今回のプレゼンを通して感じたのは、マンホール蓋にはそれぞれ固有の物語があるということです。蓋の背景にある地域の人や歴史が語られるたびに、街が動き出す瞬間を見ているようでした。受賞をきっかけに自治体同士が蓋を通じて交流する動きも生まれています。前出の森本さんは、今後について「末長く続けて文化として根付かせたい。いつかアワードの蓋も作りたいですね」と展望を語っていました。マンホール蓋は、ただのインフラではなく、人と地域をつなぐ大切な“媒介”なのだと改めて実感しました。

